

2023 年度上野千鶴子基金助成金最終報告書

| | |
|-----------|------------------------------|
| 1. 助成対象事業 | SDGs の諸課題解決に向けた活動 |
| 2. 事業の区分 | 一般プロジェクト |
| 3. 氏名/団体名 | 山秋真 |
| 4. 事業名 | 西瀬戸内海の離島・祝島および上関周辺域からの緊急レポート |
| 5. 助成額 | |
| 6. 事業実施期間 | 2023 年 8 月から 2024 年 8 月 |

7. 事業の目的

無毒化できない放射性物質を扱う原子力関連施設は最大の環境破壊要因とも呼べ、その建設は持続可能な開発と相容れないが、今なお原発計画にゆれる地域がある。その現地・山口県上関町では同意しない声も根強く、原発マネーの受けとりを迫られるたび女性が声をあげて状況を変えてもきた。ところが 2023 年 8 月、原発予定地内に使用済み核燃料の中間貯蔵施設をつくる話が急浮上。あらたな危機に直面した人びとが声をあげる場に立ち会い、草の根の声を記録し発信する。

8. 実施内容

上関町の祝島および上関へ通って中間貯蔵施設の建設計画をめぐる状況を注視しつつ、オンラインでの議会の生中継や事後配信が基本的になくインターネットを介した議事録の公開／閲覧も 24 年夏までなかった町議会に特に注目。地元や周辺の地域はもちろん国の政策にも影響する大事な議論が、地元自治体の議会で如何になされているかを発信した。また 24 年 1 月に起きた能登半島地震を受け、その震央直近に位置し 03 年まで原発の予定地だった珠洲の状況も取材発信すべく事業内容を見直して実施した。

9. 事業の成果と自己評価

極めて少数の目しか届かない場（議員 10 名＋傍聴人約 20 名、ただし 23 年 9 月議会を除けば希望者は庁舎内の議場で議会のモニター視聴可）で中間貯蔵施設の計画が動きはじめている上関町の状況、蚊帳の外に置かれた住民たちの声、そして議会の動向などを、複数媒体にて発信できた。また対面で情報を共有する機会を設けること、映像やオンライン配信を活用することも数回実施できた。これにより現地の状況を、ローカルニュース圏を越えた地域に対しても伝えること、できるだけ実感をともなって伝えることが、ある程度できたと考える。なおこの間、透明性が低いと言わざるを得ない町議会を継続的に傍聴して一次情報を確保したことは、問題を広く共有するうえで役立ったと考える。

10. 成果物

- 1) 「祝島緊急レポート 2023 年夏」 # 1-7 (WAN 掲載)
- 2) 「住民の意向問わず町長が受け入れ表明」(『週刊金曜日』 1 掲載)
- 3) 「どんぶらこ取材こぼれ話」 68 回-73 回(『地球号の危機』掲載済) + 75 回(←24 年 10 月掲載予定)
- 4) 2023 年 9 月 6 日の取材報告会 (東京新聞による記事＋生配信映像の URL→
<https://www.facebook.com/100000525771730/videos/617539130575369/>)
- 5) 2023 年 11 月 4 日の「学習会」での現状報告 (当日プログラム＋ニュースレター)
- 6) 2024 年 3 月 9 日トークイベント (東京新聞による記事＋案内チラシ)
- 7) 2024 年 4 月 6 日トークイベント (北陸中日新聞による記事)
- 8) 「祝島と上関で核と民主主義を占う」(マガジン 9 掲載)
- 9) 「能登の突端に思う・2024 年夏」前後編 (WAN 掲載)